

科目名	金工実習 I			科目コード	1612
開講学科	美術学科	単位数	4 (計)	形態	実習
教員名	長谷川 政弘				
授業の目的及びテーマ：					
金属にはそれぞれ融点があり、この性質を利用して任意の鋳型(雌型)に熔解した金属を流し込み形を得る技法を鋳金(鋳造)と呼びその技法によって得られたものを鋳物という。 金工実習 I では鋳金工程を体験する事によって金属の特性を知り造形性を学ぶ。					
授業概要					
デザイン及び鋳金について学習指導書に基づき制作する。					
授業計画：					
【通信課題】					
アルミニウムの卓上の小物					
・サイズは、一辺が 12cm 以内の立体(手のひらに乗る程度)					
・卓上で使えるもの。(用途のあるもの)例としてお皿、小物入れ、トレイ、アクセサリースタンド、お香立て、ペンホルダー、カードスタンド、ネームプレートなど数々考えられます。					
・デザインの中にモチーフとして動物の形態を取り入れること。					
例えば象、クマ、うさぎ、カバ、キリン、かえるなどユーモラスで親しみのあるモチーフが良いでしょう					
第 1 課題					
1)動物の形態を取り入れた卓上の小物類の作品、製品の写真や雑誌などの切り抜き(カラーコピーでも可)20 枚以上を A4 クリアファイルにまとめて提出。アルバムのようにめくって見られるように編集して下さい。表紙には名前、学生番号を記入して下さい。(使われている素材は陶器やプラスチックなど金属でなくてもかまいません)					
2)制作したファイルを参考に動物の種類、用途を決定しアイデアスケッチを行ってください。A4 サイズ程度の画用紙に実物大(一辺 12cm 以内)で 6 枚以上。動物の種類、用途はアイデアごとによって変わってもかまいません。画用紙の右下に動物名、用途を記載して下さい。ここから第 2 課題で制作する油土モデル 2 点を選びます。					
普段使っている机上、卓上の用途のあるもの(ステイショナリーやデスクウェアなど実際に手に取ってデザインや機能、使いやすさをじっくりと観察して下さい。)					
第 2 課題					
第 1 課題で決定した 2 点のアイデアスケッチをもとにして実物大で油土モデルを制作して下さい。					
2 点の油土モデルはスクーリング時に提出して下さい。					
油土モデルを制作するにあたっては画材屋などで売っているできるだけ硬い油土を使用して下さい。					
手だけではなく粘土ベラなど様々な道具を使うとよいでしょう。					
スクーリング課題					
石膏原型を制作し鋳造作業を行い作品を完成させます。					
1.油土モデルチェック 第 1 課題のアイデアスケッチを参考にして第 2 課題で制作した 2 点の油土モデルのどちらを進めて行くか話し合い判断します。ここで手直しが必要であれば手直しを行います。					

- 2.原型制作 油土モデルを石膏原型に置き換えます。
- 3.鋳型制作 石膏原型から鋳型をつくります。
- 4.鋳込み アルミを溶解し鋳型に流し込みます。
- 5.仕上げ ヤスリがけやペーパーがけを行います。
- 6.合評 持参した作品の用途にあった物品を作品にディスプレイし合評します。

第3課題

レポート提出。A4用紙5枚以上1600字程度。

完成した作品の写真(実際に使われている状況がわかるものを数枚)を添付してレポートを作成して下さい。様式は自由です。制作工程は必要ありません。内容は制作途中で感じた事、完成後感じた事、実際に使ってみて感じた事、他人に見せた時の感想、作品について今後の改良点などを中心に書いて下さい。

テキスト	「金工基礎実習」 佐々田美雪・長谷川政弘 著 (大阪芸術大学発行)	参考文献：	
評価方法：			
通信授業は提出課題{3件)を以って評価する。			
面接授業は受講態度、授業中提出物などにより総合的に評価する。			